



●あとがき

この「あたららしい憲法のはなし」は、日本国憲法が公布されて十ヶ月後の一九四七年（昭和二年）八月、文部省によって発行された、全国の中学生が一年生の教科書として学んだものです。

一九四六年十一月二日に公布され、四七年五月三日に施行された日本国憲法は、長かた戦争のもので、生命と財産、青春と自由のはかりしれない犠牲のうえに、フランスズムをうちたおし、平和・民主・自由を要求する国内外の世論にささえられてようやくかちとられました。同時に、当時日本を占領していたアメリカは、憲法の内容をみずからの対日支配政策の枠内におしこめようと画策しました。そのため日本国憲法は、国民主権、恒久平和、基本的人権、議会制民主主義、地方自治の諸原則にもとづく平和的民主的条項がもこまれた積極的内容をもつものとなる。一方象徴天皇制など、平和的民主的条項と相反する内容をも含むものとなりました。

当時の文部省が教科書として発行したこの「あたららしい憲法のはなし」も当然、憲法自身のもつ限界を反映し、国民主権と矛盾する象徴天皇制をそのまま肯定的に叙述するなど、批判的に検討すべき側面ももっています。しかし、全体としては、当時の平和と民主主義を求める国内外の世論の高揚を反映して憲法の平和的民主的条項の精神をいさよかりやくよくよく解説するものとなっていたのが特徴です。

それは、当時の中学生だけでなく、「教え子」をわが子

七〇

をふたたび戦場に送る」と誓いあい、新しい平和と民主主義教育の情熱に燃えていた教師、父母に明るい希望をよびこしました。

しかし、この教科書は二、三年使われただけで、日本が一九五〇年（昭和二十五年）にはじまった朝鮮戦争の基地にされ、日米安保条約が結ばれ、警察予備隊が自衛隊にかわってゆくという時代の流れのなかで、教室から姿を消していつてしまったので。

憲法施行後四十数年をむかえたいま日本の軍事費は世界第三位といわれるまでに膨脹し、憲法違反の自衛隊と米軍との日本の核戦力化をも想定した日米合同演習が激化しています。主権在民の原則と歴史の進歩に反する天皇の美化と元首化のためのキャンペーンも大々的に展開されています。加えて国民の目、耳、口をふさぐメディアの国家機密法や、軍事優先の国内体制づくりをめざす有事立法の制定、教育の国家統制と反動化をめざす策動など、民主主義と国民の権利への攻撃も強まっています。

憲法改正に反対し、憲法の平和的民主的条項をまもり、その完全実施を求める運動はいよいよ重要で、わたしたちは、この「あたららしい憲法のはなし」の普及の波が、憲法の平和民主的条項をよりどころにして、とくらしを守りついで国民各層の努力とむすびついで、この教科書の限界をこえた「平和のための親と子教師の対話による教科書」が創造されることを願っています。

日本平和委員会

残したいもの、残すべきもの

中西卓@岡山

皆さん、新制中学で採用されたこのテキストに見覚えがあると思います。私は赤磐九条の会の活動で入手しましたが、発行者が記したあとがきに注目してください。『この教科書は2、3年使われたただけでした』とあります。その後には始まった朝鮮戦争に伴って日米安保条約が結ばれ、憲法に明記された**戦争放棄**とかけ離れた実態になっていきます。湾岸戦争で海外派兵がありました。戦闘に至らなかったのが幸いでした。

ところが、現政権は専守防衛の縛りを越えるのも辞さない姿勢で、軍事費倍増の勢いです。ウクライナやガザの紛争に加えて台湾有事を理由に、南西諸島にミサイル基地を築きつつあります。相手の標的が基地・弾薬庫であっても、戦争はルールなし、民間人だからと避けてはくれません。沖縄住民の叫びは切実です。

現政権の世代は戦争を体験していないからか、文明社会と地球環境を破壊する重い罪を意識していないのでしょうか。サミットに参加するトップリーダーは自国の利害を離れて、グローバルな視点を実践しなければなりません。

現実が厳しくても、我ら世代は憲法を忘れずに、子孫の平穏な生涯を祈念したいと思います。この際各国の憲法を、軍備を持たずに平和を維持しているコスタリカはどうなのか調べてみたいと思うのですが、「出来るならやってみる」と何処からか聞こえてきそうです。

《話が変わりますが、もう一つを》今、東京都知事選で明治神宮外苑の再開発が争点になっています。世界3月号で「**危機に瀕する外苑いちよう並木**」を石川幹子*さんが10頁を割いて、専門領域から見解を述べています。江戸に遡る歴史はじめ、外苑設計におけるイチヨウ並木の位置づけや、再開発の経緯がわかります。

大阪人には御堂筋のイチヨウ並木が否応なし。岡山では、岡大津島キャンパスを仕切る景観、旧制六高（現朝日高校）の校庭に聳える存在感、イチヨウに限らず都市景観に高木の街路樹が欠かせません。神宮外苑に高層ビルは似合いません。再開発を見直す知事を期待しています。*東京大学名誉教授 農博、専攻は都市環境計画

(おわり)